自立活動（※各教科との関連があるときは教科名も記入） 環境の把握 ⑴保有する感覚の活用に関すること ⑷感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること 身体の動き ⑶日常生活に必要な基本動作に関すること ⑸作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	所属 中学部１年

ねらい

・親指、人差し指、中指の筋肉、関節を動かし、鉛筆や箸を正しく握ることができる。
・正しく、箸や鉛筆を握って使うことができる。

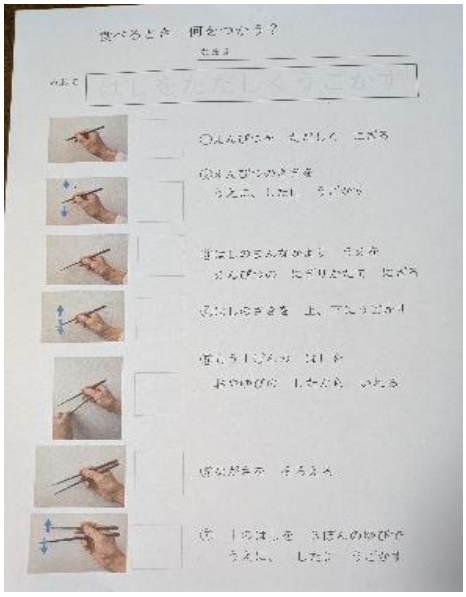
（どんな場面で、児童生徒の実態、ねらえる効果　配慮点など）

生徒の実態

・箸を使って食べることはできているが、小さなものをつまむことができず、かきこんでいる生徒がいる。
・人差し指や中指が伸びたままで、手首を動かさない生徒がいる。

配慮点

・写真付きの手順書を生徒一人一人に手元に準備する。
・以下の様な手順で、スモールステップで箸を正しく使うことができるようにする。
①柔らかいポンポンボールをつまむ。
②大豆を少量つまむ。
③慣れてきたらタイマーで時間を測り、ゲーム形式で行う。
④最後に箸で缶詰のミカンを食べる。



正しいはしの使い方





ひとこと！

箸の操作を通して、親指・人差し指・中指の使い方や手首の動きを高めることで、食事場面だけでなく、鉛筆操作など学習場面に必要な基本的な手指の動きの向上を目指した実践である。始めは苦手意識から箸を握ることを嫌がっていた生徒が、段階を踏んで活動を進めていくうちに笑顔になって自分から取り組み、箸を正しく持つことができるようになった。

自立活動（※各教科との関連があるときは教科名も記入） 人間関係の形成 （４）集団への参加の基礎に関すること コミュニケーション （５）状況に応じたコミュニケーションに関すること	所属 中学部１年

ねらい

・自分なりの方法で他者に意思を伝えながら活動を続ける。
・時間や順番、活動に関する約束を意識して、友達と一緒に活動する。
・自分の気持ちを適切な言葉で表現する。

【生徒の実態】

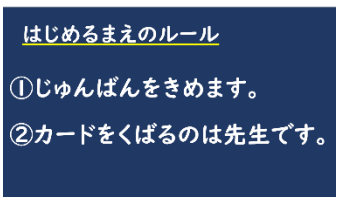
・勝敗にこだわりがあり、活動中にトラブルになることが多い。
・集団の中で時間や順番、約束を意識して活動を継続することが課題（練習中）。
・活動の中で自分の気持ちを適切に表現することが難しい。

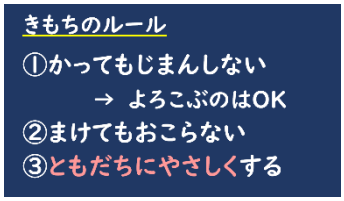
【題材名】「ルールをまもって、たのしくカードゲーム！」

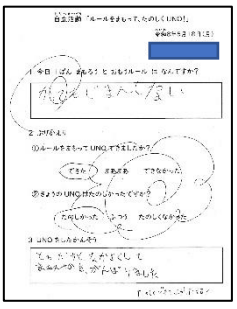
【授業の流れと配慮点】

① カードゲームルールの確認
・基本的なカードゲームのルールを電子黒板で確認する。
※使用するカードの種類を限定（１回目：数字のみ、２回目：リターン追加など）
②みんなで守るルール（約束）を考えよう！
・「みんなで楽しくカードゲームをする」ために必要なルールの例をいくつか示す。
・生徒が例を参考に必要なルールを考える時間を設ける。
・考えたことを自由に発言する時間を設ける。生徒の発言はホワイトボードに書く。
・今日の活動で自分が守ろう（意識しよう）と思うルールを１つ決める。
② カードゲームをする（２～３回）
・教師も参加し、支援が必要な生徒のサポートをする。
④振り返り
・ワークシートにそって、生徒自身が振り返りを行い、個別に教師と対話する。
・活動の中で良かった点、次回気をつけたい点を確認する。特に、良かった点は次回も継続しようと思えるような振り返りを行う。
・勝敗ではなく、友達や教師と仲良く（トラブルにならず）活動できたことに注目できるようにする。









ひとこと！

繰り返し取り組む中で、勝敗の結果を自分なりに受け止めたり、ルールを意識して行動をコントロールしたりする様子が見られるようになってきた。トラブルにならずに活動できた経験を積むことで、集団活動へ参加する意欲にもつながると思われる。

自立活動（※各教科との関連があるときは教科名も記入） （区分・項目） 心理的な安定 （１）情緒の安定に関すること コミュニケーション （５）状況に応じたコミュニケーションに関すること	所属 中学部２年

ねらい

・質問に対し、スケジュールの項目や選択肢の一覧表の中から選び、指差しで教師に伝える。

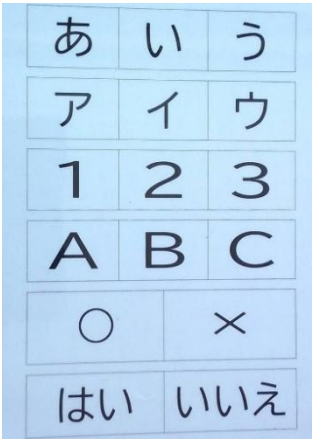
（どんな場面で、児童生徒の実態、ねらえる効果　配慮点など）

<u>生徒の実態</u>

・初めての場所、人、活動には苦手意識が強く、その場で固まってしまうことがある。

・口の動きが不十分なため、言葉が不明瞭である。話したいことは自分が知っている言葉で伝えようとするが、「はい・いいえ」の問いかけでも全体の発表の場で言葉を発することが難しい。

<u>選択肢一覧表</u>



<u>スケジュール</u>



<u>使い方</u>

① 選択肢一覧表とスケジュールは常に机上に置く。

② 授業や生活の中で、選択の場面があった場合は、該当する文字、又は数字や記号から選んで指しで自分の答えを伝える。

③ スケジュールは、一日の反省で頑張った授業を指さして教師に伝え、教師と一緒に声に出して発表するときに使う。

ひとこと！

・授業中に教師からの発問に対し、一覧表を活用することで発言への不安が軽減され、自分の考えを表出する機会が増えた。

・活用を継続することで自分の考えが伝わる経験を重ね、意思表示までの時間が以前より少し早くなった。

自立活動（※各教科との関連があるときは教科名も記入） （区分・項目） 心理的な安定 （１）情緒の安定に関すること 人間関係の形成 （４）集団への参加の基礎に関すること	所属 中学部２年

ねらい

・自分の感情やイライラのサインに気づき、その対処法や、自分を落ち着かせる考え方を知る。

（どんな場面で、児童生徒の実態、ねらえる効果　配慮点など）

授業の流れ

・生徒に、最近イライラしたことを聞く。
・例を３つあげる。→「起きたことは変えられる？」と発問し生徒同士で話し合う。
・「変えられないもの」については、それについてずっとイライラしたり悩み続けたりして、結果は変わらないことを気づかせる。
・最後にババ抜きをみんなでする。→イライラしそうなときに、どういうふうに考えるかおさらいする。



ひとこと！

・ババ抜きに負けても気持ちを切り替えて活動することができた。学校生活の中でイライラしそうな場面で学習した考え方を活用し、気持ちを切り替える姿が見られた。

自立活動（※各教科との関連があるときは教科名も記入） （区分・項目） 人間関係の形成 （１）他者とのかかわりの基礎に関すること コミュニケーション （５）状況に応じたコミュニケーションに関すること	所属 中学部２年

ねらい

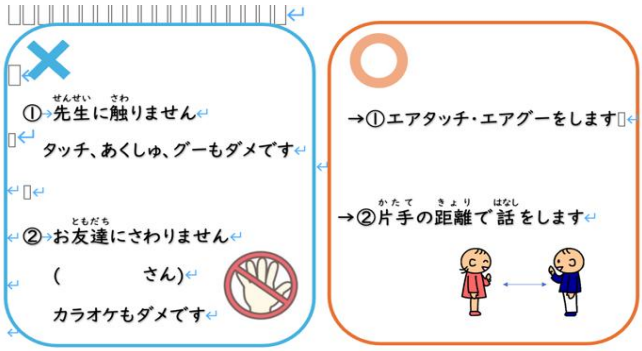
・友達や教師と適切な距離感を意識して人と関わることができる。

（どんな場面で、児童生徒の実態、ねらえる効果　配慮点など）

生徒の実態

・言葉でのコミュニケーションが可能だか、会話中に割り込んでしまうなど、周囲の状況を判断することに苦手さがある。慣れた大人には、自分の興味のあることを一方的に話してしまう。また、大人に触れることで安心を求めようとする。
・自分の好きな友達に接触したり、言葉掛けが多くなったりするなど、不適切な関わりが見られる。

約束表とチェック表の作成





使い方

①登校後、青枠に、日付と今日の時間割を記入する。
②授業が１時間終わるごとに、約束が守れたかどうか、本人と教師がチェックをする。本人と教師の評価、どちらも○がついたら１ポイントもらえる。ポイント数に応じて、その日もらえるシールの枚数が変わる。
③本人が好きなアイスのマークに到達したら、教師からアイス引換券をもらい、家庭でアイスを食べることができる。

ひとこと！

・約束を意識し、適切な距離を保って関わる場面が増えた。

自立活動（※各教科との関連があるときは教科名も記入） 人間関係の形成 （３）自己の理解と行動の整理に関すること	所属 中学部２年

ねらい

・人には様々な気持ちがあることに気付き、感情の理解を深める。
・感情が高ぶった際の行動を考えさせ、回避の方法や周囲の理解を深める。

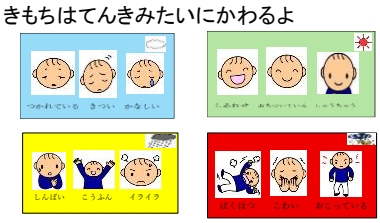
（どんな場面で、児童生徒の実態、ねらえる効果　配慮点など）

【授業の流れ】

・気持ちってどんなもの？→自由に発言させる。
　うれしい、楽しい、悲しい、くやしい、怖い、ほしい、イライラ　等々

・人はたくさんの感情があることに気付いたところで、感情はいつも安定しているとは限らず、天気のようにころころ変わることもあると感情の４つの色を紹介する。また、イライラした際などに体に現れるサインなどを紹介する。イライラのサインをそのままにしていると様々な行動をとることがあり、本人も周囲も困ることを確認する。







・怒りのメーターと体のサインを紹介し、メーターが振り切れる前に対処できる方法を考えさせたり、提案したりする。



・困っている人がいたら触ったり怒ったりしないでそっとしておくことも優しさであることを伝え、見かけた際は教師に教えるように話す。

ひとこと！

感情的になった場合、言葉で伝えたり回避しようと行動しようしたりと努力する姿が見られた。困っている生徒がいた際に、周囲の生徒が騒いだり怒ったりすることなく静かに離れたり見守ったりすることができるようになった。困っている生徒がいたら教師に教えてくれることも増えた。